研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		17-316	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Computer-Based Interventions for Problematic Alcohol Use: a Review of Systematic Reviews.

問題アルコール摂取に対するコンピュータ・ベースの介入：システマティック・レビューのレビュー

執筆者

Sundström C, Blankers M, Khadjesari Z

掲載誌

Int J Behav Med. 2017 Oct;24(5):646-658. doi: 10.1007/s12529-016-9601-8.

キーワード	PMID:
コンピュータ・ベース介入、インターネット介入、e-ヘルス	27757844

要　旨

目的：

本レビューの目的は、コンピュータ・ベースのアルコール介入の知識と知識のギャップを次の２点について概説することにある。(1)異なる集団へのコンピュータ・ベースのアルコール介入の効果の上での証拠の照合と(2)　治療的オリエンテーション、介入の期間、ガイダンス、研究参加の約束の４つの特定された調節要因の効果の衝撃度。

方法

2005～2015 年に公表されたコンピュータ・ベースのアルコール介入の効果について報告している無作為試験の系統的再調査の再調査。

結果

14 件のレビューが包含基準を満たした。含まれたレビュー全体で、コンピュータ・ベースのアルコール介入が、大部分は少ない効果の大きさであるが、アルコール消費を減らすことに効果的であると報告されている。より長期間にわたる多回数セッションの介入が、より短期間の一回のセッション介入より効果的でるとの報告であった。介入の治療的オリエンテーション、介入期間、ガイダンス、研究参加の約束とアルコール消費量との関係についての証拠は、これらのテーマに対処しているレビューの数が少ないために限定的であった。含まれたレビューでは、治療的オリエンテーション、介入の長さ、またはガイダンスの長さと試験約束と飲酒量の関係に言及していなかった。

結論：

系統的レビューの再調査により、この分野の将来の研究を導くことができた多くの知識のギャップを明かすと同時に、コンピュータ・ベースのアルコール介入を支持している大部分が正の証拠を示した。